

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・

ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名： みんなの手と手を！「南風原の宝づくり」

～南風原文化センターの手足を磨く～

事業者名：南風原町立南風原文化センター

住所：沖縄県南風原町字喜屋武257

TEL：098-889-7399

FAX：098-889-0529

HPアドレス：

連携事業者名：なし

会場：南風原町立南風原文化センター

事業期間：平成22年7月1日～23年3月15日



1. 館の使命と本事業の関係

20周年を迎えた当館は、規模は小さいながらも町の歴史である戦争・移民・民俗・民俗芸能の常設展示を中心に多くの関連事業を展開してきたが、平成21年新築移転した。これまでの活動はもちろん、平和学習、国際交流活動、染織物関連の取り組みをはじめ、歴史、文化の継承と創造という大きな夢を実現させるためになお一層の役割を担い、あらゆる努力を必要とする。

当館は、幸い多くの積極的に関わり協力を惜しまない町民や県内外、海外に至るまで私たちの活動に関心を寄せる人たちに支えられており、南風原文化センターのあらゆる分野の活動を彼らとつなげて発展させていくのもまた当学芸員の大きな使命である。そしてその活動を支えていく仕組みを構築していかなければ、館の発展はあり得ない。世代交代する町民にとっても、地域の活動に参加できる拠点作りは重要である。多くの人たちが自分の役割を見つけ積極的に活動に関わり、生き甲斐ややりがいを持って生活できるように、新文化センターの今できる必要な活動を展開できればと思う。

2. 企画内容

①事業目的

新館の開館を機に、活動の展開の必要性から次の4つの事業に取り組み、基盤を整備していきたい。

- (1)「伝説・民話伝承支援」：町に伝わる伝説の絵本化によって、より広く子ども達にも親しませる。各施設と連携する。
- (2)「染織物学習支援」：伝統工芸である染織物の製作活用に次世代をもっと積極的に関わらせる。
- (3)「常設展示室活用支援」：新館の常設展示室をもっと活用してもらうための展示室の効果的整備や学校との連携のために、授業で使えるワークシートづくりなどをする。
- (4)「はえばるYouth育成」：平和学習事業に参加したOB青年らの活動を引き続き支援することにより、より目的意識をはっきりさせ自分たちの役割を見つけ出す人材を育成していく。

②事業概要

南風原文化センター企画運営委員会と今後の活動について話し合いながら、次の事業に取り組む。

- (1)「伝説・民話伝承支援」：民話集や手作り絵本を印刷し、町内の学校や保育所等に配布し活してもらう。
- (2)「染織物学習支援」：伝統技術を駆使した新作の振袖を製作してもらい、多くの若者をはじめ地域産のきものを活用し、特に若者達に自分の地域を意識し誇りを持ってもらう。
- (3)「常設展示室活用支援」：常設展示室をより活用しやすいように整備、進化させ、展示物や展示の主旨をより身近に、深く知ってもらうため各種のワークシートを作る。
- (4)「はえばるYouth育成」：平和学習のつながりで、集まってきた高校生や大学生達が、自分たちの役割を見つけながら、戦争体験者の証言や人権問題から拾い上げたテーマについて学習資料として活用できるわかりやすい絵本を作成する。また学習会や講演会を開催するなど活動を継続させる

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

1) 「伝説・民話伝承支援」

町内の伝説や民話の手作り絵本を新たに印刷し、町内の学校や保育所等に 配布した。(4種類の民話各100冊)

2) 「染織物学習支援」

・草木染めの体験講座でエコバックの製作。



- ・伝統技術を駆使した新作の振袖を製作し(7月～12月)、若者たちに成人式を始め、あらゆる機会に地域産のきものを活用してもらうため貸し出している。
- ・町の新年宴会でのミス絣をはじめ、ブラジル研修生、成人式、卒業式などに貸し出し。

3) 「常設展示室活用支援」

- ・常設展示室をより活用しやすいように展示物や展示の主旨をより身近に、深く知ってもらうため各種のワークシートを作る。
- ・遊び場の床面が思ったより劣化が早くさらに活用させるために粉の舞い上がらないように塗装を施した。
- ・ギャラリーさゆんの電球をLEDに取り替え。
- ・お菓子のレプリカ製作。
- ・昔ながらのおもちゃの補充とすでに劣化した既存のおもちゃの作り替えのため製作。
- ・暮らしコーナーに遊び方の解説シートを作成し、子どもたちがもっと遊びの学習をしながら楽しめるようにした。



4) 「はえばるYouth育成」

- ・平和学習のつながりで集まってきた高校生や大学生達が、自分たちの役割を見つけながら、戦争体験者の証言や人権問題から拾い上げたテーマについて学習資料として活用できるわかりやすい絵本を作成する。また学習会や講演会を開催するなど活動を継続させる。
- ・7月～12月に平和学習事業に参加した意義を確認しながら、学習したことを絵本にして、後輩たちに伝えるようにするため、3種類の絵本「沖縄戦体験



証言」「ヒロシマの被爆体験証言」「ハンセン病のこと」をグループに分かれてまとめ、描画の出来る人に依頼し、データを製作。(DVD紙芝居)

- ・1月29日に沖縄の基地問題のについて現在とこれからの視点について講師を招き講座を開催。(講師：大田昌秀)



(2) 参加者の数 延べ 420人 内 訳：民話絵本製作3人／振り袖製作14人／草木染め15人／ワークシート作成6人／子どもの遊びマニュアル3人／はえばるYouth紙芝居14人／戦争と平和セミナー15人／振り袖展（まつり会場・文化センター）約300人／報告会約50人

(3) 事業により作成した印刷物等

- ・南風原町民話絵本 4種『扇美人』『麦酒の話』『アダンの実』『屁ひり兄さん』
- ・南風原文化センターリーフレット増刷
- ・南風原文化センター英文リーフレット
- ・沖縄陸軍病院壕英文リーフレット
- ・常設展示室ワークシート 4種「戦争」「戦後史」「移民」「人びとの暮らし」
- ・『ハイオ南風原織』

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事



平成22年11月6日
沖縄タイムス



平成23年1月10日
沖縄タイムス



平成23年3月11日
琉球新報

- 琉球新報 平成22年11月6日「琉球紵・南風原花織 若者に照準、新作振り袖」
- 平成23年1月10日「紡ぐ未来 シマ特産の振り袖 最高 地域知る機会に」
- 3月11日「派手すぎない 個性的 紵・花織振り袖貸し出し」
- 沖縄タイムス 平成22年11月6日「成人式南風原産着物で」
- 平成23年1月10日「紵や花織晴れ姿彩る 今日成人の日」

○テレビ、関連誌等

NHK沖縄 2010年11月18日夕方6：10～「なまからハイサイ！」
振り袖製作の紹介 10分程度

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む）

今回の助成事業は盛りだくさんではあったが、今後の指針となるような事業を展開することができた。

まず、長年発掘され発刊されていた地域の伝承話を、さらに活用する形で絵本にし、子ども達

へわかりやすく親しみやすく普及させること、「読み聞かせの会」のみなさんと連携する方法を見つけ出すことができた。今後もその機会を増やしていきたい。

振り袖製作については、思った以上に反響があり、製作する側、借りる側も新しい取り組みを歓迎してくれた。これは、地元の紺事業協同組合の今後の事業展開にもつながり、若者たちをターゲットにしたことも良かった。「成人式」だけではなく、結婚式や、卒業式での借用依頼もあり、さらに活用の機会は増えそうである。「地元産」あるいは「地域のもの」を身につける意識を持つことは、若者にとって、重要な意義を持つことであると期待したい。

常設展示室の整備及びワークシート作成についても、各学校の先生方と連携することで活用の幅が広がり、展示物の活用方法もより具体的に展開できる。「生きた展示」を心がけ、改善点を見いだせる「進化する博物館」をめざしたい。

「はえばるYouth」は、小学生の頃からつながりのある平和学習を基本とした若者たちの集まりで、そのOBとしての「アオギリ.com」のグループと共に大切に育成していきたいと考える。学校や学年の枠を越え地域の仲間としてテーマを見つけ、学習・交流しながらそれぞれが成長し、地域を支える大きな力となる組織になれるよう見守りたい。今回の事業では、自分たちで学習したことの内容を絞り、「沖縄戦の証言」「ヒロシマ原爆被爆者との出会い」「ハンセン病について」の3種類の紙芝居を作り、映像紙芝居の製作に取りかかった。今後は学校などでの活用をめざしたい。

■はえばるYouth・セミナー報告と感想

1、セミナーの目的

高校生・大学生のメンバーは、平和学習への参加を通して平和について考えることの大切さを肌で感じているが、日常的に学習をできる場は限られていた。そこで今回、戦争体験、平和行政に力を入れ県知事としてご活躍された大田昌秀さんをお招きし、セミナーを開催した。

2、セミナーの概要（参加者：「はえばるYouth」メンバーや平和学習OBなどから13人）

大田さんご自身の戦争体験や沖縄（もしくは日本）に対して若い頃どのように考えていたのか、また、今若い世代が平和について考え、取り組むことの大切さについて3時間以上に及び語っていただいた。内容は多岐にわたっていたが、学徒動員での戦争体験が「戦争とはなにか」「戦争をなくすにはどうすべきなのか」という痛烈な問題関心の背景にあり、それが現在にいたる研究活動や県知事時代の取り組みにもつながっていたことが印象的であった。参加者からは、終戦後にどのような体験をしたのか、日本が沖縄に基地を置く理由や本土と沖縄のメディア報道の違いなどについて質問が出され、大田さんに丁寧に応えていただいた。今後も継続的に学習の機会を持つことが重要だと考える。

3、参加者の感想（一部抜粋）

- ・これから自分がどのように沖縄について向き合っていくべきであるかということを考える上で、非常に参考になることを教えていただきました。
- ・非常に面白く、また貴重な時間だった。何よりも沖縄に対する、熱い思いがひしひしと伝わってきた。今後も沖縄戦や基地、沖縄のことについてもっと勉強したいと思った1日でした。
- ・平和教育の大切さについてくり返し言及されていたことが印象に残っています。私達の世代も将来を見ずえ積極的に考えていくべきだと思いました。

